

宮城県に適するマルベリー（桑の実）採取用桑品種と仕立法

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

現在、普及している桑品種は、養蚕用としての用途であり、品種育成、仕立て方とも桑葉多収性を重視して行われてきた。しかし、近年消費者ニーズの多様化等からマルベリー（桑の実）の果実的利用価値も見直されつつある。そこで、今回、本県に適するマルベリー採取用桑品種の選定及びその仕立法について検討したところ、成果が得られたので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 加工用は、大粒又は多収である大唐桑，カタネオ，シマグワ，ひのさかりの4品種を，生食用としては，糖度の高い小左衛門（福島）1品種の5品種を宮城県に適した桑品種とする。（表1）
- 2) 仕立て方は喬木仕立てとする。
植付1年目は地上20cmで剪定，3本主枝仕立てとする（3本確保出来ない時は摘心を行う）。
2年目は春に70cmで剪定，翌春に矮小枝，横臥枝等を間引き剪定を行う。
3年目は6～7月に椹収穫，翌春切り戻し剪定及び矮小枝，横臥枝等の間引きを実施する。
4年目以降は3年目の繰り返しを行う。（表2，表3，図1）

3 利活用の留意点

- 1) 宮城県における自然環境下では，植付2年目からの椹収穫及びその後の切り戻し剪定は，桑株の生育に多大の悪影響を及ぼすため行わず，椹収穫は3年目からとする。
- 2) 夏期～秋期の生育期において，風の影響を受け幹割れを起しやすいので，植付け2年目以降適宜支柱を設置する。
- 3) 収穫時，枝条を極端に曲げると折れやすいので注意する。
- 4) 施肥は，10a当たり成分量でN18kg，P8kg，K9kgを毎年春に散布する。
- 5) 苗木の入手は，種苗業者からの購入又は自家増殖で行う。

（問い合わせ先：農業・園芸総合研究所 蚕業部 TEL0223-34-1211）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

桑椹の生産技術及び食品加工技術の開発 (平成12年～16年)

2) 参考データ

表1 品種別桑椹特性 (平成14年～15年平均)

品 種	1 椹当たり		糖 度 (Brix%)	P H	クエン酸 (g / 100ml)	椹重量 (2年計) (g / 株)
	重量 (g)	長さ (cm)				
大 唐 桑	4.40	3.95	10.1	4.4	0.49	1,637
カタネオ	2.35	2.26	11.8	4.6	0.42	1,419
小左衛門 (福島)	2.07	2.58	14.9	4.7	0.40	2,122
シマグワ	2.25	2.24	11.5	4.3	0.64	1,662
ひのさかり	2.41	2.60	12.2	4.9	0.34	997

植付距離：畝間2.0m 株間0.5m (10a当たり1,000本)

50品種系統の中から5品種を選抜した。

表2 桑の実採取用仕立法の剪定時期

品種系統： 200

区	主枝高 主幹高	収穫・剪定時期							
		1年目		2年目		3年目		4年目以降	
		3月	6月	3月	2月	6月	2月	6月	2月
試験区	70cm 20cm	地上 20cm	(摘心) 3本確保	前年枝 地上70cm 剪定	間引き 剪定	収穫	切り戻し 剪定	収穫	切り戻し 剪定
対照区	主幹形	地上 20cm		前年枝無剪定 1本立て剪定	間引き 剪定	収穫	切り戻し 剪定	収穫	切り戻し 剪定

植付距離：畝間4m 株間2m (10a当たり125本)

表3 着椹状況

品種系統： 200

試験区	収穫開始 (月日)	収穫終期 (月日)	椹 収 量 (g / 株)			
			平成14年	平成15年	平成16年	計
試験区	6 / 9 ~ 19	6 / 30 ~ 7 / 9	439	3,143	5,172	8,754
対照区	6 / 9 ~ 19	6 / 28 ~ 7 / 9	188	2,756	1,926	4,870

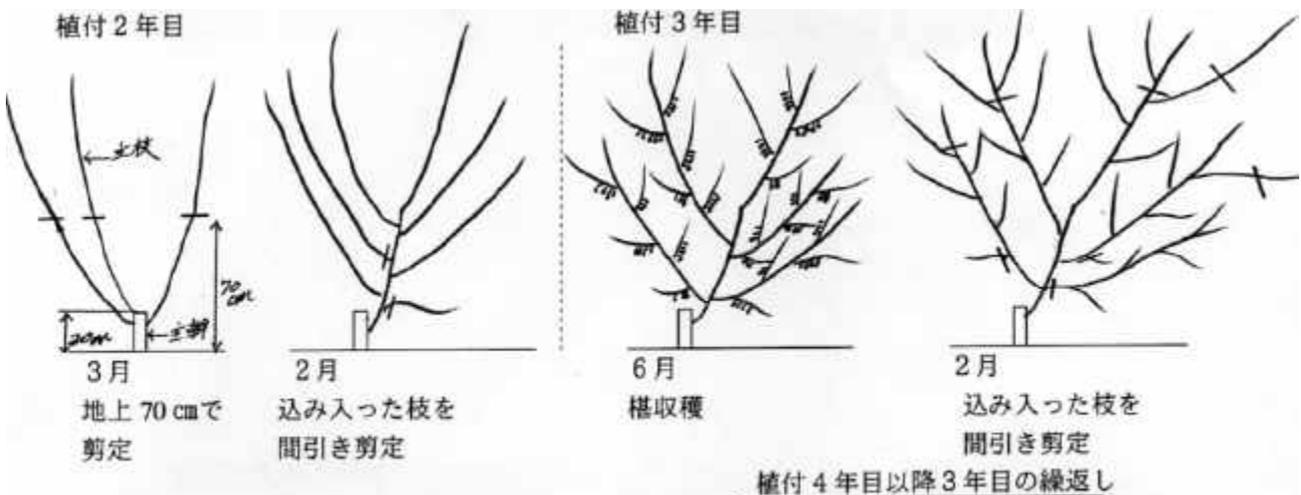


図1 桑の実採取用(喬木)仕立法

3) 発表論文等 なし